

ノ立場ヲ有利ニスルモノトハ思ハレサルモ形勢ヲ觀察シツツアル間ニ何等カノ變化アルヘケレハ之ヲ利用シ適當ノ方策ヲ考フル事トシ此際ハ餘リ焦ラサルヲ得策ト思考ス、加之此際引續キ談判ヲ急ケハ唯同様ノコトヲ繰返スノミニテ先方ヲシテ衷心ヨリ首肯セシムルニ至ル新論據ニ乏シ但シ此考察ノ下ニ於テハ豫備會議ニ於テ格別ノ成果ヲ得ルコトナク此儘ニテ本會議ニ臨ムコトナルコト已ムヲ得ス今後ト雖モ形勢ヲ有利ト爲スカ爲ニ下協議等ニモ尙一層ノ努力ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ目下ノ感想一應御参考ニ供シ置クコト無益ニ非スト信ス』

第二編 會 議 ノ 經 過

第一章 總 說

倫敦海軍會議ハ第一編記述ノ通關係國間ニ於ケル豫備交渉ヲ經テ一九三〇年一月二十一日英國上院ニ於テ開會セラレ同年四月二十二日「セント・ジエームス」宮ニ於ケル五國條約ノ署名ニ依リテ結了セリ此ノ間九十二日ニ及リタルカ其ノ經過ヲ總説スルニ左ノ如シ

會議ハ之ヲ四期ニ分ツコトヲ得ヘシ、第一期ハ開會ヨリ二月五日米國試案提出ニ至ル迄ノ期間ニシテ各國共所要數ノ全部ヲ明示セス會議ハ専門事項ノ討議ニ忙ハシク實質問題ニ付何等ノ進展ヲ示サス、第二期ハ二月五日ヨリ二月二十五日日米私的會議ニ至ル期間ニシテ日英米三國ノ保有量ニ關スル内協議全ク行詰リタルニ加ヘ佛國政變ニ依リ會議ハ全然停頓セリ、第三期ハ二月二十五日ヨリ四月一日帝國政府回訓ニ至ル期間ニシテ日英米三國保有量ノ妥協案成立シ佛伊ノ態度モ明トナリ倫敦協定ノ基礎成レリ、第四期ハ四月一日ヨリ同二十二日條約ノ調印ニ至ル期間ニシテ會議ハ其ノ協定事項ヲ整理セリ

第一節 開會ヨリ米國試案提示迄

開會ヨリ
迄二月五日

議事進行ノ具體的方法ニ付決定セサルヘカラサル處該問題ハ會議開會前五國間ニ協定ナカリシヲ以テ方法決定

本會議ハ先ツ議題並議事進行ノ具體的方法ニ付決定セサルヘカラサル處該問題ハ會議開會前五國間ニ協定ナカリシヲ以テ五國首席全權ハ會議開會ニ先チ（一月二十日）議事進行ノ方法ニ關シ打合ヲナシタリ右ノ結果決定セラレタル最重要ナル事項ハ各自カ公式ノ席上ニ於テ論争ヲ惹起スルカ如キ提議（所要量問題等）ヲ提起セサルコトヲ約セル一事ナリ、從フテ一月二十一日開會式（第一回總會）ニ於ケル各國首席全權ノ演說ハ勿論一月二十三日各國ノ態度ヲ聲明スル爲メ開會セラ

レタル非公開ノ總會（第二回總會）ニ於テモ各國全權ハ自國ニ取り海軍力ノ必要ナル所以ヲ陳述セルニ過ギス若様全權モ亦軍備縮少ノ協定ハ各國民ノ安全感ヲ動搖セシメス相對的ニ現實ノ縮少ノ實ヲ擧タルヲ要スルヲ以テ之カ協定ヲナスニ當リテハ各國諸般ノ事情ヲ考慮シ他國ノ脅威タラサルト共ニ他國ヨリ脅威ヲ受ケサルコトヲ基調トスヘキ旨述ヘタルニ止マリ何等保有量ニ觸レタルモノナシ、斯クテ會議ノ成否ヲ左右スヘキ實質問題ハ各國關係者間ノ内談ニ委セラレ公式會議ニ於テ取扱ハレタルモノハ専門事項ニ過キナリキ

卷一百一十五

日英間ノ問題ハ會議開會前ノ豫備交渉（一月七日ヨリ十三日迄ノ間前後四回）ニ依リテ何等妥協點ニ見出スル所ハサリシ處處

日本英専門家會合
ヨリテ余リニ伸縮性ヲ缺クモノナリトテ之ヲ批難スルカ如キ態度ヲ示シ全權間ノ會談ニテハ妥協點ヲ見出シ難シト感シタルモノノ如ク日英専門家ノ會談ヲ提議シタリ然ルニ右提議ニ從ヒ一月二十四日開催セラレタル日英間ノ専門委員會會合ニ於テモ英國則ハ前記象駒交歩ノ祭ノ是案タル八寸泡延羊監米十八、英十五、日十二ナル案ヲ是出シタルヲ以テ我方ニ於テ

素ヨリ之ヲ受諾シ得ヘキニアラス越テ一月二十八日ノ日英全權會議ノ席上若観全權ヨリ我方ノ立場ヲ説述シ大巡米國保有隻數ヲ十八ヨリ低下スレハ我方モ十二ニ接近スヘク米國ノ數字ヲ低下シ得ナルヘキヤフ質シタルニ英首相ハ其ノ不可能ナルヲ述ヘ次テ我方ヨリ試ニ總括的七割ニ付英國側ノ意向ヲ尋ネタルモ英首相ハ比率ハ英國側ノ重要視スル所ニアラス其ノ實際的結果ヲ重要視ストヲ回答ヲ與ヘス會議ハ進捗ノ余地全然無カリシカ右會議ノ結果會合スルコトナリタル「クレーギー」齋藤間ノ非公式會議（二十九日）ニ於テ先方ヨリ總括的七割問題ヲ提起シ米國保有量ヲ五十一萬噸我國ノ保有量ヲ三十八萬二千八百噸（大型十萬八千四百噸小型九萬八千四百噸驅逐艦十一萬六千噸潛水艦六萬噸）英國側ヲ五十三萬九千噸トセンコトヲ試ニ提倡セリ齋藤部長ハ右案ニ付我方ノ意見ヲ述フルコトヲ差控ヘタルカ右ハ大型巡洋艦ノミニ付テ言フモ我方ノ到底承認シ得ナル所ナリシニ依リ事態ハ依然トシテ何等ノ進展ヲ見ナリキ

此ノ期間ニ於ケル莫佛（伊）ノ内交渉ハ制限方式ニ關スル問題ヲ主トシ保有量問題ニハ觸ルル所ナカリキ

第三回總會設置ノ爲メニ開催セラレタルモノナルカ右ハ議題問題ノ審議手間取り且議題ニ關シ各全權國首席全權ニ於テ時宜ニ應シ會合シ議事ノ進行ヲ圖ルコトニ前記二十日ノ會議ニテ決定ス）會議ノ議題ハ一月二十五日漸々各國全權側ノ意見ヲ參酌シタル議題表ノ作成ヲ了シ同月二十七日ノ五國首席全權會議ニ於テ初メテ討議セラレタリ右議題表ハ一般問題及特殊問題ノ二部ヨリ成リ一般問題中ニハ制限ノ方式及手續ニ關スル總噸數主義、類別方式及噸數融通問題ノ三項ヲ掲ケアリシ處同日ノ討議ニ於テ佛國側提出ノ「總噸數主義」ニ關シ伊國側ハ「比率問題」ノ一項ヲ追加センコトヲ主張シ議論ラヌ翌二十八日ノ討議ヲ經テ一月三十日ノ第三回總會ニ於テ議題表中ノ方式及手續ノ問題ハ五國全權部ノ任命スヘキ代表者ヨリ成ル一委員會ニ附託シテ審議報告セシムルコトニ決定シタリ

第三回總會ハ單ニ右議題委員會設置ノ爲メニ開催セラレタルモノナルカ右ハ議題問題ニ審議手取リ且議題ニ關シ各全權間ニ意見ノ相違アリ等ノ風説アリタルニ鑑ミ速ニ公開ノ會議ヲ開クヲ得策トシタルカ爲ニ外ナラス而シテ英國諸新聞ハ一般ニ右委員會開催ノ上ハ永ク懸案タリシ方式問題ニ付英佛間ニ妥結ヲ見ルヘキヲ期待シ會議ノ前途ニ對スル樂觀的觀察ヲ發表セリ

問制
題限
方式

期ノ如クシテ會議ノ制限方式問題ノ討議ニ移リタルハ前縣委員會ハ（委員任命ニ本筋ノ經緯ヲタル後屆第一委員會ニ
於テ之ニ當ルコトナレリ）一月三十一日第一回會議ヲ開キ本問題ニ關スル各國ノ主張ヲ聽キ且討議ノ基礎案ノ作成ヲ待
ソテ四日討議ヲ續行セルカ同會議ニ於テハ大體佛國提案（佛國妥協案）ヲ逐項審議スルコトナリタリ然ルニ同案第二項
總噸數ノ配分ニ關シ總噸數決定ノ上ハ之カ各艦種間ヘノ配分ニ當リテハ關係各國ト協議ノ必要ナシトスル佛國側ノ主張ト

協議ヲ要ストナス英國側ノ主張トノ根本的差異ニ付適當ノ妥協點ヲ見出スコトヲ得ス結局之ヲ首席全權會議ノ決定ニ委スルノ止ムナキニ至レリ「マクドナルド」ハ開會ヨリ二週日ニ垂ントスルニ不拘會議ノ進捗思ハシカラサルヲ見テ二月四日首席全權會議會議全權

五國首席全權會議ハ席上新聞關係ヲ考慮シ成ルヘク速ニ總會ヲ開クコト、各國全權部間ノ内交渉ハ成ルヘク早目ニ切上ケ協定ニ達スルニ力ムヘキコト等ノ提議ヲナスニ至ルカ談合ノ結果總會ハ制限方式委員會ノ決定ヲ公表スル意味ニテ七日午前之ヲ開クコトニ決定セリ然ルニ第一委員會ノ事務モ豫想程進捗セス且七日ハ「タルデュ」モ不在トナルヘキヲ以テ五日ノ首席全權會議ハ七日豫定ノ總會ヲ十一日午前ニ延期シ其ノ際潛水艦問題ニ對スル各國ノ立場ヲ説述スルコトシ尙第一委員會ヨリ送付アリタル制限方式問題ニ對シ首席全權會議ニハ他ニ爲スベキ事アリ斯ノ如キ問題ヲ取扱フノ煩ニ堪エストテ再ヒ第一委員會ニ附託セリ

第二節 米國試案ノ提示ヨリ日米私的會談迄

(一) 日米交渉及英佛伊交涉

二月五日
ヨリ二月
迄二五日
二月五日
米國試案
提示
案ノ
全權ニ對シ其ノ試案ナルモノヲ提示シタリ

右試案ハ巡洋艦ニ付米國大型（八吋砲艦）十八隻十八萬噸小型（六吋砲艦）十四萬七千噸英國大型十五隻十四萬六千八百噸小型十九萬二千二百噸トシ英米兩國カ各々自國ニ割當テラレタル右大型小型ノ噸數ニ代ヘ米國ハ英國ノ噸數又英國ハ米國ノ噸數ト全然同一ナル勢力ヲ保有スルノ權利（所謂「オブション」）ヲ有スルコトトシ我方ニ對シ大型十二隻十萬八千四百噸小型九萬二百五十五噸驅逐艦米英各二十萬噸我方十二萬噸潛水艦米英各六萬噸我方四萬噸即總計米五十八萬七千噸英五十九萬九千噸我方三十五萬八千六百五十五噸（對米六割強）ヲ割當テ主力艦ニ付テハ華府條約規定ノ一五、一五、九ニ達スル迄舊艦ノ即時廢棄（我方ハ金剛ヲ廢棄ノコト）海軍休日ノ延長及「ロドニー」「ネルソン」ト均衡ヲ圖ル爲米、日兩

國ニ依リ主力艦一隻ノ建造ヲ又航空母艦ニ付テハ華府條約規定ノ航空母艦噸數中ニ補助航空母艦噸數ヲ算入スルコトヲ提議シ制限外艦船及特種艦船ニ付テモ提議スル所アリ

二月六日
米國試案
ノ公表
（我國ニ關スル部分ハ内容ヲ表示セス頗ル漠然タル措辭ヲ用ヒ佛伊ニ關シテハ何等ノ提議ヲナサルヘキ旨ヲ明記セリ）

右聲明ハ從來滯滯勝ナリシ會議ニ一刺戟ヲ與ヘ會議ノ進行ヲ促進スルノ效アルモノトシテ一般輿論ノ歡迎ヲ受ケタルカ「マクドナルド」ハ右唐突ノ聲明ニ當惑シ之ニ對シテ其ノ立場ヲ明瞭ナラシムルヲ要ストテ急遽覺書ヲ作成シ其ノ要旨ヲ八日發表セリ（右覺書ハ十日下院ニ提出セリ）

二月十三日
帝國全權
聲明書
二月十三日
佛伊全權
聲明書
二月十九日
伊國全權
聲明書
（我國ニ關スル部分ハ内容ヲ表示セス頗ル漠然タル措辭ヲ用ヒ佛伊ニ關シテハ何等ノ提議ヲナサルヘキ旨ヲ明記セリ）母艦噸數ヲモ含メ英米十萬噸他國ハ華府條約ノ比率ニ依リ之ヲ減少スルコトヲ提倡スル點ニ於テ我方聲明ハ比率ノ實數ニ言及セサル點ニ於テ佛國全權ノ聲明ハ一九三六年末ニ於ケル佛國海軍勢力ヲ七十二萬四千四百七十九噸ト計上シタル點ニ於テ注意ヲ惹ケリ伊國ノ聲明ハ從來ト何等異ル處ナシ米國試案作成當時ニ於テハ英米間ニ於テハ未タ大型巡洋艦三萬噸ノ問題ニ付談合成立セヌ从テ英國ハ米國側カ大型巡洋艦二十一隻ヨリ十八隻ニ低下セルヲ滿足トシタルモ右三萬噸ヲ小型巡洋艦ニ換算セル噸數ノ過大ナルコト及主力艦一隻建造ニハ强硬ニ反対セリ

二月十二日
帝國試案
ノ提示
（我國ニ關スル部分ハ内容ヲ表示セス爲メ米案ニ對スル對案ノ形式ニ依ラス日本獨自ノ立場ヨリ立案セル試案ヲ作成シ二月十二日夕米國全權及英國側ニ提示セリ右帝國試案ハ主力艦ニ付テハ一九三五年末迄建造延期、華府協定隻數ノ不變更、航空母艦ニ付テハ我方元來ノ主張ナルニ依リ米國試案同様、補助艦ニ付テハ八吋砲艦米英各十五隻ノ場合ト十八隻ノ場合ヲ分チ十五隻ノ場合ニ於テハ米巡洋艦三十三萬九千噸驅逐艦十五萬噸潛水艦八萬一千噸（米國カ潛水艦ヲ六萬噸トスル時ハ驅逐艦ヲ十七萬一千噸トナスコトヲ得）計五十七萬噸我方巡洋艦二十一萬六千五百五十

五噸内八吋砲艦十二隻十萬八千四百噸驅逐艦十萬五千噸潛水艦七萬七千九百噸總計三十九萬九千五百五十五噸（七割）トシ
八隻ノ場合ニ於テハ米巡洋艦三十二萬七千噸驅逐艦潛水艦ハ十五隻ノ場合ト全然同一總計五十五萬八千噸トシ我方巡洋艦
二十萬七千七百噸内八吋砲艦十四隻十二萬六千噸驅逐艦及潛水艦ハ十五隻ノ場合ト全然同一總計三十九萬六百噸（七割）

トナセリ

二月十七日米國全權ノ發意ニ依リ日英米三國全權會議ヲ「セント・ジエームス」宮ニ開催シ日米兩提案ニ付意見ヲ交換ス
ルコトトナリタルカ米國全權ハ米國カ大巡二十一隻ヲ十八隻ニ低下シタルニ不拘日本カ之ニ對應スル低下ヲ考慮セス新艦
二隻ヲ建造セントスルヲ非議シ砲ノ數、英國ニ對スル影響、華府條約ノ比率ノ變更カ米國民ノ心裡ニ與フル惡影響及米國
カ廢棄ヲナスニ不拘日本カ增艦スルカ如キ案ニ上院ノ批准ヲ得ル望絕無ナルコト等ノ理由ヲ說述セルニ對シ若規全權ハ一
々強硬且量率直ニ之ヲ反駁シ七割比率ノ必要ナル所以ヲ縷述シ更ニ六割比率ヲ強ヒントスル米國ノ底意ニ對スル我國民ノ
感想ヲモ忌憚ナク説明シ七割以下ノ比率ニ依ル條約ニハ到底調印シ得ナルコトヲ力説シ談合一步モ進マサルニ至レリ茲ニ
於テ英國全權「ヘンダソン」ヨリ日米雙方ニテ更ニ慎重考慮ノ上再會スルコト可然ト提言シ散會スルコトナレリ

會議停頓
米國試案ノ提示以來各國全權ノ聲明等ニテ活氣ヲ呈シタル會議モ右十七日ノ會談ニ依リ全然行詰リノ情勢トナリ他方英佛
ノ間ニ於テハ二月十三日ノ佛國全權聲明書記載ノ保有量並安全保障問題ニ付内談進行中ナリシ折柄（伊太利ハ依然對佛均
勢ヲ固守シテ動カス）十七日「タルデュー」内閣ハ下院ニ於ケル財政問題ノ爲メ倒壊シ爲ニ本會議ハ二十六日迄休會トナレリ
タルヲ以テ議事ノ進行ハ停頓ノ狀態ニ陷レリ

（二）専門事項

制限方式ニ關スル噸數配分ノ方法ニ付テハ英佛間内協議ノ結果妥協成リ首席全權會議ヨリ再附託ヲ受ケタル第一委員會ハ
二月六日（第一委員會）
二月六日第三回會議ニ於テ「意見交換ノ後噸數ヲ配分ス」トノ形式ニ妥結シ更ニ制限方式中ノ類別問題（類別表ノ作成）ヲ討
定

議シタルカ纏マラス結局之カ審議報告ヲナスヘキ専門委員會ヲ設立シ右委員會ニハ特種艦船及制限外艦船問題ヲモ附議ス

ルコトニ決定セリ

右專門委員會ハ七、八、十ノ三日會合シ配分ノ方法ニ付テハ前記ノ形式ヲ其儘採用シ類別表ニ付テハ各國ノ意見一致セサ
ルニ依リ多數ノ意見ヲ列舉シタル上一ノ表ヲ作成セリ

二月十日豫定ノ通開催セラレタル首席全權會議ハ潛水艦問題ニ關スル。十一日ノ總會（第四回）ニ關シ協議ヲ遂ケタルカ（制
限方式問題ヲモ提出スヘシトノ議モアリタルモ間ニ合ハサルヘシトテ提出セサルコトトセリ）右總會ニ於テ議長ハ制限方
式問題ニ關スル専門委員會ノ議事終了セルヲ以テ其ノ報告ヲ受クル爲十二日第一委員會ヲ開催スヘキ旨ヲ披露セリ

次テ總會ハ潛水艦ニ關スル各國ノ聲明ニ移リタルカ英米ハ其ノ廢止ヲ主張シ日佛兩國ハ廢
止ニ反對シ結局（一）潛水艦廢止（二）使用制限及艦型制限ノ問題ヲ第一委員會ニ附託スルコトニ決定セリ

二月十二日（第一委員會）
十二日開會ノ第四回第一委員會ハ制限方式ニ關スル専門委員會ノ報告ニ付審議セルカ配分ノ方式ニ付テハ異議ナカリシモ
配分表問題ニ付意見分レタルヲ以テ各全權部ヨリ代表者ヲ出シ右第一委員會ニ於テ意見一致セル點ヲ纏メタル報告ヲ起草
セシムルコトトセリ

尙第一委員會ハ第四回總會ヨリ附託ノ潛水艦問題ヲ其ノ儘前記専門委員會ニ附託セリ

專門委員會ハ（十日制限方式問題ヲ議了セリ）十三日（第四回）及十四日（第五回）ノ會合ニ於テ制限外艦船ノ審議ヲ了
シ十七日（第六回）特殊艦船ノ審議ヲ開始シ難問ハ分科委員會ヲ設ケラ研究セシメ會議休會中モ休止スルコトナク二十七
日（第十二回）ニ至リ議了セリ（此ノ間ニ於テ飛行機母艦及我練習艦ニ付多大ノ論議ヲ見タリ）

第三節 日米私的會議ヨリ帝國政府回訓迄

二月二十日
五月一日ヨリ
迄四月二十日

佛國政變ノ結果二月二十六日迄休會シ佛國新全權ノ着英ヲ俟チ二十七日首席全權會議開催ノ豫定ナリシ處後繼「ショーラ

ノ内閣ハ二十五日下院ニ於テ信任投票ニ敗レタルヲ以テ佛國新全權來英迄何日ヲ要スルヤ見極メ附カナル事態下ナリ(他方佛國全權退英ヲ以テ會議ノ前途ヲトスル新聞論調散見スルニ至レリ)タルヲ以テ二月二十六日首席全權會議ヲ開催シ(佛國大使出席)新事態ニ處スヘキ今後ノ議事手續ニ付協議セリ

二月二十
六日首席全權會議
ハ在英同國大使出席)新事態ニ處スヘキ今後ノ議事手續ニ付協議セリ

席上「マクドナルド」ハ會議促進ノ必要ヲ力説シ三週間位内ニ協定ニ達シ度ク之カ爲ニハ「ユーロビアン、グリーン」(英佛伊)及ヒ「ハイ、シーズ、グリーン」(日英米)ノ各部ニ於テ内交渉ヲ遂ケ其ノ上ニテ雙方ノ結果ヲ一括シ五國協定ニ達スルノ順序ヲ執ルコトトシ度シ提議シ右ノ趣旨ニテ議事促進ヲ計ルコトナレリ右提議ノ裏面ニハ日英米間ニ協定成立スルトキハ場合ニ依リ英佛伊間協定成立ノ如何ニ不拘直ニ日英米三國ノ軍縮協定ヲ作ルコトヲ得ヘシトノ底意アリシモノノ如ク此點ニ付英米間ニハ相當協議ヲ遂ケタルモノト推察セラル而シテ右會合ノ後會議ハ最初豫定ノ通其ノ議事ヲ繼續スヘキ旨ノ「コンミニケ」發表サレタルコトハ會議ノ失敗説ヲ緩和スルニ相當ノ效果アリタリ

(一) 日米私的會談

松平「リード」會常トセリ故ニ三國交渉行詰ノ直後ヨリ行ハレ居タル齋藤「クレーギー」間ノ會議ニ依リ我方ノ態度ハ米國側ニ於テモ知悉セル所ナルヘシト雖モ三國間ノ内協議ヲ進捗セシメンカ爲ニハ日米間ノ直接交渉ニ最モ重キヲ置カナルヘカラス然ルニ日米共只從來ノ主張ヲ繰返スノミニテハ何等歸着點ニ達セナルヘキヲ以テ自由大膽ニ意見ヲ交換シ而モ如何ナル意見モ之ニ依リ相互ニ何等拘束ヲ受ケナル了解ノ下ニ交渉スルノ外局面打開ノ良策ナシト認メ日米間ノ會議ヲ圖リツアリタルモノ我方ヨリ進ンテ會見ヲ求ムルハ面白カラナルヲ以テ米國側ヨリノ申出ヲ待チ居リタル處「リード」全權ヨリノ申出アリタルニ依リ二月二十五日ヨリ松平全權ト同氏トノ間ニ私的會議開始セラルニ至レリ會議開始ノ當日「リード」ハ左記趣旨ノ提案ヲナシタリ

第一回 案		大 型	一八〇,〇〇〇	十五隻ヲ建造シ残リ三隻 ハ次回會議迄竣工セシメ サルコト	日
小 型	一四三、五〇〇			一〇八、〇〇〇 (代換シ得サル老齡艦一萬 噸ヲ含ム)	
驅逐艦	一五〇、〇〇〇			九〇、〇〇〇	
潛水艦	六〇、〇〇〇			五一、〇〇〇	

右提案ハ總計五三三、五〇〇噸對三五八、四〇〇噸ニシテ六割七分強トナリ二月五日提示ノ米國試案ニ比シ我方ニ有利ナルモ大型巡洋艦ノ隻數及噸數小型巡洋艦ニ老齡艦ヲ含ムノ點及ヒ潛水艦噸數ニ於テ我方ノ主張ト相當距離ヲ有スルヲ以テ松平全權ハ之カ受諾不可能ナル旨ヲ述ヘ大型ニ付キ米國カ終リノ三隻ヲ建造セサル場合ニハ日本ハ現有ニテ滿足シ米國之建造スル場合ニハ日本亦七割ヲ保持スル如ク建造ストノ趣旨ノ我對案ヲ提出セリ然ルニ「リード」ハ二十八日右對案ハ米國側ノ承諾シ得サル所ナル旨ヲ通報シ來レルニ付我方ハ三月二日大型ニ付米國カ十八隻計畫ヲ實行スルコトヲ認ムルモ終リノ三隻ノ起工ノ年次間ニ二隻ヲ新造スルコト潛水艦ヲ米國六萬噸我方七萬七千九百噸トスルコトヲ越旨トスル第二次提案ヲ提示シタルカ三月三日「リード」ハ米國側ニ於テ右案ニモ反對ナル旨ヲ言明セリ斯テ約一週間ニ亘ル率直ナル意見ノ交換モ兩者ノ立場ヲ近接セシムルヲ得ス會談殆んど行詰ラントスル形勢ナリシカ若櫻全權ヨリ更ニ「ステイムソン」ニ説キタル結果會談ヲ促進セシムルコトトナリタルカ三月八日及十日「リード」ハ曩ニ提示セル試案ノ修正案ヲ提示セリ(十日ノ修正案ハ米國五三三、五〇〇、「我方老齡艦ヲ含ミテ三七四、五一五即七割強)

次テ若櫻全權ト「ステイムソン」(十二日)及若櫻全權ト「リード」(十三日)トノ間ノ會議ノ結果米國側ハ其ノ最後案トシテ小型ヲ全部艦齡内トシ潛水艦ヲ七百噸増量シテ日米均勢トセル左ノ案ヲ示シ我方ノ主張ニ對シ大型ニ關シテハ留保案ニ後議事案

テ満足セントヲ求メ潛水艦噸數ハ右以上到底増量シ得スト述へ之ニテ妥結セントヲ求メタルモ若規全權ハ責任ヲ以テ

政府ニ呈示シカヌル旨ヲ答ヘタリ

六八

米

日

大　　巡	一八〇、〇〇〇（建造ノ條件ハ「リード」 第一次案ト同）	一〇八、四〇〇
小　　巡	一四三、五〇〇	一〇〇、四五〇
驅逐艦	一五〇、〇〇〇	一〇五、五〇〇
潛水艦	五一、七〇〇	五一、七〇〇

右案ハ總計ニ於テ五十二萬六千二百噸對三十六萬七千五十噸即六割九分七厘五毛餘ニ當ル
英國側ノ態度

英國側ハ日米會談ニ關シ常ニ米國側ト同一ノ態度ヲ持シ來リタリ

二月下旬「クレーギー」カ齋藤部長ニ對シ「リード」最初ノ試案中ノ大型ニ關スル起工延期案ハ英國側ヨリ米國側ヲ設得シテ承諾セシメタル所ニテ實際上日本ノ立場ヲ充分擁護シタルモノナルノミナラス潛水艦噸數モ日本ノ主張ニ讓歩シタルモノナレハ英米側ニ於テ右數字以上讓歩ヲ難シトスル所ナリト主張シタルカ如キ三月四日「マクドナルド」モ亦松平全權ニ對シ右起工延期案ニ付「クレーギー」ト同趣旨ヲ述ヘ又翌五日「クレーギー」カ再ヒ齋藤部長ニ對シ我方ニ於テ是非共起工延期案ヲ認メンコトヲ切望シタルカ如キ又三月十三日若規全權ニ對シ「マクドナルド」カ我方ノ主張タル大型一隻ノ建造及十二萬噸代換ニ對シ反對ノ意ヲ表シ同問題ニ付テハ留保ノ形式ニテ満足セントヲ望ム旨ヲ繰返シタルカ如キ其ノ例證ナリ

三月十四日請訓
我全權ハ米國側最終讓歩案並對米及對英交渉ノ經過ニ付全權會議ヲ開キテ慎重且深甚ナル考究ヲ加ヘタル結果十四日政府ニ對シ米國側ハ事實上總括的七割ヲ認メタルコト、大型巡洋艦ニ付テハ我主張ニ副ハスト雖次回會議迄ハ事實上大體我方ハ七割以上ノ勢力ヲ保有スルコトト見ルヲ得ヘキコト、潛水艦ニ付テハ先方カ其保有量ヲ低下シテ我ト均勢ヲ申出タルハ

一ノ讓歩ト認メ得ヘキコト並新タル事態發生セサル限り先方ヲシテ之上讓歩セシムルコト因難ナル處佛國問題カ中心トナリテ五國協定不成立トナル場合ハ兎モ角今日我態度ニ依リ會議ノ破綻ヲ見ルカ如キ場合ニ至ラハ諸般ノ關係上我方ニ重大ナル影響ヲ及ボスコトナルヘキニ付深甚ノ考慮ヲ加ヘサルヘカラサルコトヲ開陳シ其ノ後佛伊ノ態度其ノ他事態ノ推移ニ鑑ミ引續キ我主張ノ貫徹ニ努ムヘキモ政府ニ於テ前述交渉ノ成行ニ對シ考察ヲ加ヘ回訓アランコトヲ希望セリ

若規全權ハ更ニ三月二十五日前記稟申ハ事情ヲ悉サナル憾アリトテ詳細ニ其ノ所見ヲ具申シテ政府ノ參考ニ供シタリ
十四日我全權ノ請訓ニ關シ十五日殊ニ十七日以來諸新聞ハ續々日米協定成立ノ報ヲ傳ヘ又社説ニ於テ佛國ノ讓歩或ハ佛伊ノ妥協ヲ促スモノ出テ來リタルカ佛國側ハ我政府ニ對シ三國假妥協案ヲ受諾セサランコトヲ希望スルノ意ヲ通シ（三月十七日在京佛國代理大臣ノ外務大臣ニ對スル申出）米英兩全權ハ之ヲ受諾セントヲ希望スル演口總理大臣宛「メツセージ」ノ傳達方ヲ幣原外務大臣ニ依頼シ「マクドナルド」ハ若規全權ニ對シ二十一及二十七ノ兩日ニ瓦リ日本ノ受諾的回答ヲ促ス處アリ特ニ二十七日ニハ英佛伊ノ關係ニ關聯シ我回答ヲ遲延セシムルコトナキヲ希望シ米國側亦我方ニ對スル佛國側ノ運動ニ付注意的申入レヲナス所アリタリ

(二) 英　佛　伊　交　渉

「タルデュー」内閣ノ後ヲ受ケテ成立セル「ショーテン」内閣ハ議會ノ信任ヲ得ス「タルデュー」再ヒ組閣三月五日信任「タルデュー」内閣成立
投票ヲ獲得セルヲ以テ外相「ブリアン」海相「デュミニール」等六日夕來倫九日及十日英米對佛國間ニ安全保障條約ニ關スル談合行ハレタルモ佛國ノ要求ト稱セラルル相互援助條約若ハ「ロカルノ」式地中海協定ハ米國ハ勿論英國モ同意スル
ヲ得ス問題ノ解決至難トナリタルヲ以テ本問題ハ全然私談ノ形トナシ「協議協定」ト前記地中海協定トノ間ニ中間案ヲ見出サントシ別ニ英佛海相並各専門家ニ米國ノ傍聽者ヲ加ヘタル委員會ヲシテ佛國聲明書中ノ數字ヲ基礎トシ考究ヲ加ヘシ
メ此方面ヨリ何等カ事局打開ノ端緒ヲ得ントセルモノノ如シ

此ノ時（三月十五日）再度來英セル「タルデュー」ハ三月十六日「マクドナルド」ヲ「エカーズ」ノ別荘ニ訪問シ長時モ十一日首席全權會議席上ノ議論ニ徴スルニ（「グランディ」ハ佛國カ七十二萬四千四百七十九頃ヲ要求スルニ於テハ伊國モ之ヲ要求スト言ヒ「ブリアン」之ヲ强硬ニ反駁ス）双方ノ主張調和ノ餘地少ナク會議ノ失敗説盛ニ流布セラルノ状態ナリシカ十三日夕「ブリアン」ノ新聞記者トノ會談及英國官邊ノ發表ハ會議決裂ノ悲觀説ヲ抑制スルニ效アリタルモ難關ハ依然トシテ存續シタリ

ド「ナル」
ド「タル」
デニー」
会談
間ノ會談ヲ行ヒタリ右會議ハ（政治條項ニハ觸レス數字ヲ討議シタルモノノ如シ）會議ノ前途ヲ決スルニ最重要ナル關係アルヘシト豫想セラレタルカ満足ナル結果ニ到着スヘシト確信スル旨佛國全權ノ聲明アリタルモ事實何等進展ノ模様ナク

三月二十六日米國側カ「協議協定」締結ヲ再考シツツアリトノ報道ニ關シ米國全權ハ一ノ聲明ヲ發シタルカ右ハ眞意明ナ
ス
三月十七日タルデユ一
アメリカ
及二十一日
アフリカ
ス
英國
（當時伊國ハ所要噸數トシテ三十五萬噸ナル數字ヲ擧ケタルモ佛國ハ少クトモ右數字ヨリ二十五萬噸ノ優勢ヲ保持スヘキ
コトヲ主張セリ）

ラサルモ佛國ノ安全保障要求ニシテ英國トノ間ニ圓滿解決ヲ見タル上ハ米國ハ「協議協定」ヲ考慮シ差支ナシト云フニ在
リシモノノ如シ而シテ英佛間ノ交渉ハ二十六日再ヒ來倫セル「ブリアン」ニ依リテ再開セラルニ至レヨ即チ同氏ハ保障
協定問題ニ關シ英國當局ト會談ヲ行ヒ「マッシグリー」ト英國側法律専門家等トノ間ニ英佛相互ノ間ニ受諾シ得ヘキ「フ
六月英佛間交渉開始三月二十日

オーミュラ」作成ヲ議スルコトトナリ最初佛國側ヨリ聯盟規約第十一條ヲ基礎トシテ話ヲ進メ度キ旨提議セル處其ノ後英
日英國側聲明三月三十日
國側ヨリ第十六條解釋問題トシテ討議センコトヲ求メ右ニ基キ種々協議ヲ重ネタルモ妥協案ヲ發見スルニ至ラス遂ニ三十三
日夕英國側ハ英國ハ平和維持ノ爲出來得ル限リヲナスノ意思アルモ此ノ上軍事的義務ヲ負フカ如キハ全然問題外ナル旨聲

明スルニ至リ會議ハ遂ニ危機ニ際會セリ

向ヲ有シタルモ何等具體化セサリシカ如シ
輿論ニ對スル方策トシテ總會ヲ開催スル件ハ三月七日ノ首席全權會議席上言及セラレ（同會議ニ於テハ七日午後第一委員會ノ結果ヲ待ツテ制限方式ニ關スル總會開催ノ時期ヲ定ムルコトトナレリ）十一日首席全權會議ノ席上ニ於テモ問題トナレ

(三月二十一日首席全權會議) リタルカ「ブリアン」ハ更ニ制限方式問題ノ重要性ヲ述へ之ヲ議題トセシコトヲ提議シタルカ結局米佛間ニ内協議ヲ遂ケタル上潛水艦使用制限ノ問題ヲモ上程スルコトナレリ) 三月二十五日首席全權會議ノ際「マクドナルド」ハ會議ニ對スル一般ノ評判良好ナラサル點ニ言及シ總會ヲ開クノ必要ヲ説キ次週ニハ是非共開催シ度キ旨ヲ希望シ議題トシテ本會議ニ軍備ノ縮減ノ實際的方法ヲ見出サントシテ努力シツツアル旨ヲ高唱センコトヲ提議シ越ヘテ二十七日ノ首席全權會議ニテ議題ニ付討議アリ「ブリアン」ハ潛水艦使用制限問題ハ未了ナルモ制限方式問題ハ決定セルニ付之ヲ上程スヘシト提唱シ「マクドナルド」ハ新聞紙等ハ會議ノ細目ニ捉ハレ本體ヲ忘レ居ル傾アルニ付會議ノ眞使命ニ付再ヒ言明ラナスコト有蓋ナルヘシト主張シ種々意見交換ノ結果會議ノ現狀(専門事項及差支ナキ範圍ニ於テ内交渉ノ模様)ヲ會議ニテ公表スルコトトナリ期日ヲ四月四日ト定メタリ

(三) 專門事項

二月二十六日ノ首席全權會議ニ於テ專門事項審議進行ノ現狀ヲ會議事務長ヨリ各國全權部ニ報告セシメ其ノ上ニテ第一
六日首席全權會議三月四日
三月七日
首席全權會議ニ於テ右事務長作成ノ報告書ヲ基礎トシテ
委員會又ハ總會ヲ開クベキヤ否ヤヲ決スルコトトナリ三月四日ノ首席全權會議ニ於テ右事務長作成ノ報告書ヲ基礎トシテ
議論會ニ於テ未タ充分右文書ヲ研究スルノ達ナカリシ爲問題ノ實質ニ入ラサリシカ三月七日ノ首席
全權會議ニ於テ右文書並第一委員會第一報告書（右ハ制限方式ニ關スルモノニシテ本章第二節（二）ニ述ヘタル委員ノ起草シ
タルモノヲ便宜上第一委員會ノ議ヲ經ス直接首席全權會議ニ提出セルモノナリ）ヲ討議シ
ケル時也於
會議ニ於
書討論

(甲) 第一委員會ニ於テ決定ニ達セル點即チ

(イ) 嘘數分配ノ方式
 配分表（各國ノ意見ヲ附シタル儘ニテ）

(ロ) 融通ノ原則及融通前豫告ノ原則

日英米三國ノ關スル限り驅逐艦ノ割當噸數中嚮導驅逐艦ニ充當スヘキ噸數ヲ一定歩合ニ限ルノ主義ヲ承認シ

(乙) 第一委員會カ首席全權ノ考慮ニ移セル諸點中

(イ) 六時砲巡洋艦ノ最大最小排水量及驅逐艦ノ最大排水量決定ノ問題

各類別ハ砲ノ口徑ノミニ依ラス排水量ヲモ加味スルノ主義ノ二點ハ第一委員會ニ再附託ニ決シ

(ハ) 八時砲巡洋艦ノ隻數制限問題

八時砲巡洋艦ヨリ六時砲巡洋艦ヘノ融通及驅逐艦ト六時砲巡洋艦トノ間ノ相互融通問題ハ保有量ノ問題ト密接ノ

關係アルニ付暫ク之ヲ留保スルコトニ決定セリ

(三) 制限外艦船及特殊艦船ニ關スル問題ハ三月三日ノ第十二回專門委員會ニ於テ審議ノ結果第一委員會ニ提出スヘキ第二報告書ノ決定ヲ見タルカ三月七日開催ノ第五回第一委員會ハ右報告ノ逐項審議ヲ行ヒ

(一) 特殊艦船噸數ヲ總噸數中ニ含マシムヘキヤ否ヤノ問題特ニ

華府條約規定以外ノ飛行機母艦噸數ヲ何レノ類別ニ入ルヘキヤノ問題ヲ持越スコトトシ且

(二) 我練習艦ノ代換問題ヲ上級機關ノ者究ニ讓ルコトシタル外總テ決定ニ達スルコトヲ得タリ

（右決定事項中我方ニ直接關係アルハ敷設艦代換ノ承認、練習艦五隻保有ノ二點ナリ）

三月十一日開催ノ第六回第一委員會ハ右(一)ニ關シ特殊艦船噸數ヲ總噸數中ニ含マシメサルコト及(二)ニ關シ華府條約ノ規定ハ變更セス一九三六年迄ハ此種艦船ハ實際問題トシテ考慮スルヲ要セサルコトニ意見一致セリ

制限外艦船及特殊艦船ニ關スル問題ハ三月三日ノ第十二回專門委員會ニ於テ審議ノ結果第一委員會ニ提出スヘキ第二報告書ノ決定ヲ見タルカ三月七日開催ノ第五回第一委員會ハ右報告ノ逐項審議ヲ行ヒ

(一) 特殊艦船噸數ヲ總噸數中ニ含マシムヘキヤ否ヤノ問題特ニ

華府條約規定以外ノ飛行機母艦噸數ヲ何レノ類別ニ入ルヘキヤノ問題ヲ持越スコトトシ且

(二) 我練習艦ノ代換問題ヲ上級機關ノ者究ニ讓ルコトシタル外總テ決定ニ達スルコトヲ得タリ

（右決定事項中我方ニ直接關係アルハ敷設艦代換ノ承認、練習艦五隻保有ノ二點ナリ）

三月十一日開催ノ第六回第一委員會ハ右(一)ニ關シ特殊艦船噸數ヲ總噸數中ニ含マシメサルコト及(二)ニ關シ華府條約ノ規定ハ變更セス一九三六年迄ハ此種艦船ハ實際問題トシテ考慮スルヲ要セサルコトニ意見一致セリ

右第六回第一委員會ハ前記七日ノ首席全權會議ヨリ再附託セラレタル二問題ヲモ討議シタルカ

(イ) 六時砲艦ノ最大排水量問題ハ七日首席全權會議ニ於ケル米國側ノ異議ニ鑑ミ第六回第一委員會ニ於テ討議セス後日

ノ問題トシテ留保セラレ、六時砲艦ノ最小排水量及驅逐艦ノ最大排水量問題（所謂不建造帶問題）ハ佛伊ハ直接關係ナキヲ以テ之ヲ除外シ日英米間ニ協議報告セシムルコトニ經リ

(ロ) 排水量併記ノ問題ハ伊國カ反對ノ留保ヲナシタルモ他ノ四國間ニ併記スヘキ主義ノ承認ヲ見タリ

尙右第一委員會ハ軍艦處分規則ノ審議ヲ專門委員會ニ附託セリ

同十一日ノ首席全權會議ハ右第一委員會ノ報告ヲ聽取承認シタル外補助航空母艦ヲ華府條約所定ノ航空母艦噸數内ニテ處

辨スルノ主義ヲ承認セリ

潛水艦問題

潛水艦問題中艦型問題ニ付専門委員會ハ三月五日、六日、七日及十三日ノ四回ノ審議ヲ經テ決定ニ達シ其ノ報告ヲ第一委員會ニ提出シタリ（第一委員會ハ四月ニ入り初メテ之ヲ審議セリ）

軍艦處分ニ關スル規則ヲ審議セル專門委員會ハ分科會ヲ設ケ之カ攻究ニ當ランメ三月二十六日（第十八回會合）右分科會ノ報告ヲ討議シ一應決定ヲ見タリ

第四節 帝國政府回訓ヨリ條約調印迄

(一) 日英米交渉

四月一日
英佛伊ノ會談進捗思ハシカラス帝國政府ノ態度ニ關スル各種ノ報道傳ヘラレタル折柄四月一日我全權ハ帝國政府ノ訓令ヲ

受領セリ

右訓令ハ日英米妥協案内容ノ確認ヲ要スルコトヲ述ヘタル上左ノ趣旨ヲ英米側ニ回答スヘキ旨ヲ掲記セリ

今回ノ妥協案ニ依レハ數年後帝國海軍ノ相對的勢力ハ逐次低下スルコトトナリ我國民カ國防上不安ノ念ヲ抱クコトナキヲ保シ難ク斯クテハ帝國政府ノ特ニ重大視スル國際平和親善ノ目的ハ達成セラレサルヘク之レ政府ノ最痛心スル所ナルモノ本案ハ一九三六年迄ノ事態ヲ律セントスルニ止リ爾後ノ兵力量ニ付テハ一九三五年會議ニテ協議決定スルモノナリト了解スルカ故ニ帝國政府ハ本案作成ニ當リ示サレタル各國全權ノ交讓ノ精神ヲ諒トシ之ヲ條約案ノ基礎トスルヲ承認スルモノナリ

從ツテ八時砲巡洋艦ノ問題ニ付テハ日本カ本案ニ同意ヲ表スルハ豫メ次回會議ニ於ケル我主張又ハ立場ヲ何等拘束スルモノニ非ナルコトニ付英米ノ明瞭ナル了解ヲ得ルヲ要ス又潛水艦問題ニ付テハ本案ハ我製艦技術及工業力維持上重大ナル障害アルヲ以テ右困難ヲ緩和スルニ足ルヘキ方法ヲ講センカ爲メ關係各國ニ於テ友好的考量ヲ加フルコトヲ希望ス且佛伊トノ關係上英米ノ潛水艦保有量增加スル場合ニハ我保有量モ當然增加シテ均勢ヲ保ツモノト了解ス

尙政府ハ確認ヲ要スル日英米三國協定ノ内容トシテ

一、日英米三國保有量二、條約有效期間及右期間後ハ全然各國ノ態度ヲ拘束セザルコトニ關スル規定三、本協定カ五國條約ノ一部タルヘキコト四、潛水艦英米ノ増率ニ伴フ我方ノ增量五、佛伊不參加ノ場合本假協定ノ趣旨ニ依リ日英米ハ三國協定ヲ締結スルコト且右條約ハ主力艦代換建造延期ヲ含ムコトノ五點ヲ擧ケ之ニ對スル英米ノ言質ヲ取付クルコトヲ要スル旨ヲ記シ且右等諸點解決ノ具體的方法ニ關シテモ同示スル所アリタリ

全權ハ右帝國政府ノ訓令ニ基キ四月二日英米全權ト會同シ前記帝國政府カ三國協定案ノ内容トシテ了解スル所ヲ陳述シ英米兩國側ノ確認ヲ得次テ政府訓令ノ内容ヲ傳達セル處英米全權ハ日本全權並政府當局ノ好意ニ對シ謝意ヲ表シタリ

右確認ヲ經タル三國保有量左ノ如シ

一九三六年ニ於ケル日英米補助艦保有量

(イ) 八時砲巡洋艦

三國協定
案
四月二日
日英米全
權會合

米十八隻 十八萬噸

一九三五年以前竣工スルモノハ十五隻十五萬噸ヲ超エサルコト第十六隻ハ一九三三年、第十七隻ハ一九三四年第十

八隻ハ一九三五年ニ起工セラルヘシ

英十五隻 十四萬六千八百噸

日本十二隻 十萬八千四百噸

米國カ十五隻十五萬噸ヲ超エ建造スル場合日本ハ之ニ應シテ建造スルノ權利ヲ一九三五年ノ會議ニ於テ要求スルノ自由ヲ有ス此意味ニ於ケル留保ノ形式ニ付テハ更ニ協定スヘキコト

(ロ) 六時砲巡洋艦

米 国

一四三、五〇〇

一九二、二〇〇

一〇〇、四五〇

英 日

本

各一五〇、〇〇〇

一〇五、五〇〇

(ハ) 駆逐艦

米 國 及 英 國

五二、七〇〇

五二六、二〇〇

五四一、七〇〇

(ニ) 潛水艦

米國英國及日本

總 計 米

五二、七〇〇

五二六、二〇〇

三四七、〇五〇

四月二日
出席全權
會議問題

同日午後四時五國首席全權會議ニ於テ若規全權ハ帝國政府ニ依ル妥協案ノ受諾並其ノ理由ヲ簡説シタルカ同日ノ會合ニ付新聞紙カ種々ノ記事ヲ掲載スヘキヲ慮リ同夜我全權部ハ聲明書ヲ發シ右妥協案ノ受諾及其ノ理由ヲ公表セリ

未決問題
ノ處理
級上ノ如ク三國協定ノ内容ニ付英米ノ確認ヲ得タルヲ以テ全權ハ爾來訓令ニ掲記セラレ若ハ未解決トシテ殘存セル問題ノ

解決ニ當レリ其ノ重要ナルモノヲ概説スルニ左ノ如シ

(イ) 八吋砲巡洋艦ニ關スル留保問題

本問題ハ我方ノ最重要視セル所ナルカ我方ニテ留保ヲ附スル場合ニハ英米兩國側ニ於テモ對抗的留保ヲ附スルノ勢看取セラレタルヲ以テ全權ハ斯クテハ我方ニ於テ留保ヲ附スルモ意義ヲナサス且事態ヲ紛糾セシムモノナルニ付所謂留保ハ之ヲ附セス會議ノ席上聲明ヲ爲スヲ得策ト認メ先ツ之カ形式ニ付考究ヲ加ヘタルカ更ニ熟考ノ結果條約文中ニ留保ノ趣旨ノ一項ヲ挿入シ關係國ニ於テ右挿入ニ反對ノ場合聲明ヲ爲スノ案ヲ樹タリ右案ニ付テハ其後政府ト意見交換ノ結果兩者ヲ併用スルコトニ決定シ先ツ條約文ニ付英米側ト内協議ヲ遂ケ一ノ案文ヲ決定セリ右案文ハ條約第二十三條第一項及第二項中段以下ノ規定トナレリ聲明文ハ米國側及英國側トモ了解ヲ付ケ政府トモ意見交換ノ結果決定シ最終總會ノ席上若規全權之ヲ聲明セリ

(ロ) 潛水艦問題

驅逐艦ヨリ潛水艦ヘノ融通問題ハ一般融通ノ原則問題トシテ他ノ融通問題ト一併論議セラレタルカ帝國政府ノ回訓以來之ヲ具體的ニ解決スルコトトナリ四月三日ノ三國全權會議ニ於テ若規全權ヨリ、越テ九日ノ三國全權會議ニ於テ若規、財部兩全權ヨリ詳細ニ亘リ我方ノ主張ヲ開陳シ先方ノ同意ヲ求メタルニ英國側ハ協定ノ根本趣旨ニ反スルモノトシテ又米國側ハ國民ノ到底承認セサル所ナリトシテ强硬ニ反對シ到底我方ノ主張ヲ容レス仍テ我方ニ於テハ當時第一委員會ニ於テ融通問題ヲ審議スルコトトナリ居レルヲ以テ同委員會ニ於テ研究セシムヘキコトヲ留保シ討議ヲ打切りタルカ四月十二日第八回第一委員會ニ於テ我方ハ其ノ從來ノ主張ヲ述ヘ之ヲ記錄ニ留ムルコトトナシタリ

建造線上問題

潛水艦建造線上問題ハ主義トシテ英米ノ同意スル所ナルカ融通問題ト關聯スル爲四月三日ノ三國全權會議ニ於テモ四月四日ノ特別專門委員會ニ於テモ同月七日ノ同委員會ニ於テモ又八日ノ三國全權會議ニ於テモ討議後廻シトナリタルカ（但シ融通問題ト關聯シテ隨時論及セラレタリ）九日ノ三國全權會議ニ於テ我方ヨリ造艦技術維持ノ問題ハ三國協定トシテハ代換ニ依ルノ外ナシトテ融通問題ヲ撤回シテヨリ初メテ建造線上問題討議セラレ十日ノ三國全權會議ニテ正式ニ同意ヲ得細目ハ特別專門委員會ヲシテ之ヲ決定セシムルコトトナリ

右専門委員會ハ同日本問題ヲ決定セルカ其ノ内容ハ條約第二十條ノ規定ト實質ヲ同フス

(ハ) 古鷹級代換問題

本問題ハ四月三日ノ日英米全權會議ノ結果特別專門委員會ニ附託セラルルコトトナリタルモ四月四日開催ノ同委員會ニテ決定ヲ見ス八日日英米全權會議ニ報告セラレタルカ我方ヨリ亡失ノ場合八千噸乃至八千五百噸型ニテ代換シ得ルコトトシ度シト希望セルニ對シ英米側ニ於テ條約ニ明記スルヲ肯ンセス萬一ノ場合ニハ我要求ニ對シ好意的考慮ヲ加フヘキヲ確言セルヲ以テ「ハンケー」氏ノ作成シ居ル議事錄（英國側ノ心覺ノ爲メ作成シ居ルモノニテ配布シ居ラス）中本日本件ニ關スル部分ヲ配布シ各國ニテ承認ノ上保存スルコトシテ妥結セリ

(ニ) 水上補助艦建造線上問題

本問題ハ主義トシテ英米ノ同意スル所ニシテ四月三日ノ三國全權會議ノ結果特別專門委員會ニ附託セラレタルカ右委員會ハ四月四日及七日前後三回ノ會合ニ於テ審議ヲ重ねタルモ完全ナル合意ニ達スルコトヲ得ス其儘之ヲ八日ノ三國全權會議ニ報告セル處同會議ニ於テ代換案ヲ決定シ十日ノ三國全權會議ニ於テ確認セラレタリ條約第二十條及第二編第一附屬書第一款之ヲ規定ス

水上補助艦建造線上問題

「オブション」問題

(ホ) 「オブション」問題

英國ハ「オブション」ヲ行使セサルコトニ決シタルカ米國ハ十八、十五ノ「オブション」ノミナラス大巡十六隻目以

下ニ付テノ「オブシヨン」ヲモ行使スルノ意向ヲ有シタリ然ルニ訓令ハ米國側ニ於テ「オブシヨン」ヲ行使セナルコトヲ前提トシ居ルヲ以テ全權ハ四月二日訓令通報以來米國側ニ對シ若シ米國カ「オブシヨン」ヲ行使スルニ於テハ協定ニ依リ漸ク確定セル事態ニ紛糾ヲ來タスノ虞アル旨ヲ指摘シ何等カノ形式ニ於テ米國側ノ言質ヲ取り置カンコトヲ希望シ再三申入レタルモ先方ハ容易ニ之ニ應セナリシ處米國ノ製艦能力上「オブシヨン」行使ノ場合ニモ其ノ大巡十六隻目ニ該當スル小巡ハ一九三三年以前ニハ起工シ得ナルヘキ實情ニ稽ヘ何等カ此趣旨ノ約言ヲ取付ケ得ヘシト考ヘ米國側ト内交渉セル處結局米國全權側ヨリ右趣旨ノ言明ヲ我方ニ與フルコトトナリ四月十五日若槻、財部兩全權ニ對シ「ステムソン」「リード」「プラット」同席ヨリ右ノ趣確認スル所アリタリ

(ヘ) 主力艦ニ關スル問題

本問題中所謂休日延長ニ關シテハ各國意見ノ相違ナク廢止問題ハ英伊ド日米佛トノ間ニ意見分レタルモ公式ノ席上ハ勿論全權間ノ内協議ニ於テモ討議ヲ見ルコトナクシテ丁リ日本米兩國ノ新艦一隻建造ノ問題ハ提案者タル米國側ニ於テ撤回シタリ從テ多少問題トナリタルハ我國一、米國三、英國五隻ノ主力艦廢棄問題ナリ、我方ハ二月十七日英米三國全權會議ノ席上右一隻廢棄ニ反対シタルモ同日全權ノ裁量ニ依リ應諾差支ナキ旨ノ訓令アリタルヲ以テ四月二日三國全權會議ノ際之ニ同意セリ

尙艦型及艦齡問題ハ會議中大ナル論議ヲ見ス四月十日日英米三國全權會議ノ席上我方ヨリ之カ解決ノ必要ナル所以ヲ述ヘタルモ英米ニ賛セス佛伊ハ元來艦齡延長ニ反対ナリシヲ以テ之ヲ一九三五年會議ニ讓ルノ外ナキコトトナレリ

(ト) 航空母艦及補助航空母艦問題

三月十一日首席全權會議ニ於テ華府條約所定航空母艦噸數中ニ補助航空母艦ヲモ包含セシメテ制限スルノ問題五國間ニ決定セラレタリ（華府條約ノ噸數ノ縮減ニハ英國ヲ除クノ外不同意）然ルニ四月一日ノ首席全權會議ノ席上米國側ヨリ新提案ヲ出シ我方主トシテ之ニ反対シ纏ラナル爲問題ハ専門家間ノ非公式會議ニ移サレタルカ四月八日ノ第七回

(チ) 小型巡洋艦驅逐艦間融通問題、練習艦問題ニ付テハ後述専門事項ノ部參照

第一委員會及米國側ト内協議ノ結果四月十二日第八回第一委員會ニ於テ前記決定ヲ確認スルト共ニ「戰艦巡洋艦等トシテ設計セラレタル艦船ニ歸着又ハ發進甲板ヲ付スルモ右ハ特ニ且專ラ航空機搭載ノ目的ヲ以テ設計セラレタルモノニ非ラサルヲ以テ般上ノ航空母艦中ニ入ルモノニ非ス」トノ米國側ノ主張ニ對シテハ現有主力艦ニハ一切右裝置ヲ施サス巡洋艦保有量ノ二五「パーセント」以下ニ限リ之ヲ認ムルコトニ協定成リ第五回總會ニ於テ正式ニ決定セラレタリ航空母艦艦型及艦齡問題解決ハ前記主力艦ニ關スルモノト同様次回會議ニ讓ルコトナリ

問題練習艦問題

聯盟規約 問題第十六條

四月二日英佛専門委員ノ會合ニ依リ聯盟規約第十六條ノ義務ヲ闡明定義セントスルノ形式、案出セラレ會議進歩ノ趣報セラレタリ、同日首席全權會議ノ席上「ブリアン」ハ四日總會開催ヲ決シタルハ當時ノ情勢混沌タリシ爲ナルモ今ヤ一方三國ハ協定ニ達シ英佛伊ノ交渉モ先頭ヨリ稍々有望ニ進展シツツアリ今日總會ヲ開キテ各國ノ立場ヲ公ニスルハ有害無益ナリ

ト主張シ總會ハ無期延期トナリタルカ右ニ微シレハ英佛伊間ノ交渉ハ多少良好ナリシモノノ如クナルモ規約第十六條ノ義務ヲ定義スルノ案ニハ伊國側ニ反対アリテ協定ヲ見ス其ノ後英佛間ニ尙會談行ハレ五國協定ニ達スル方法ヲ發見セント易メタルモ成功セス遂ニ十日朝行ハレタル英佛伊ノ會議ニ於テ次週早々總會ヲ開キテ之迄成立濟ノ諸協定ニ調印シ一旦會議ヲ休會シタル後英佛伊ノ間ニ於テ日英米協定ト一體ヲ爲スキ協定ニ達スル爲メ努力ヲ重ヌルコトニ決定セリ（十日下院ニ於ケル英首相ノ聲明）越エテ十一日開催ノ五國首席全權會議ノ席上更ニ「マクドナルド」ヨリ右ノ趣提議シ「ブリアン」

聯合會議 問題第十六條

「グランディ」共ニ之ヲ承認シ右ニテ英佛伊ノ關係一應落着セリ

二、保障條項問題

英國側ニ於テハ佛國トノ交渉思ハシカラサリシ結果佛國ノ龍大ナル海軍計畫ニ對抗スル爲メ英國カ巡洋艦若クハ驅逐艦ニ
關シ佛國ノ新建造ニ依リ大ナル影響ヲ受クル時ハ日米ニ通告シ巡洋艦若クハ驅逐艦ノ增量ヲナスコトヲ得ヘク日米モ英國
カ增量セルト同艦種ヲ比例的ニ増量シ得ヘシトノ趣旨ノ條文ヲ條約中ニ挿入スルコトニ依リ對佛問題ヲ解決セント決シ米
國側ニ依頼シテ四月十六日我方ニ對シ右趣旨ノ案文ヲ提示セシメタリ之ニ對シ我方ヨリ(イ)巡洋艦若ハ驅逐艦ト限定セス
主義上潛水艦ヲ含マシムル文言トスルコト及(ロ)直ニ增量セス外交機關ヲ通シテ協議ノ上増量スト改ムルヲ要ストノ反
對意見ヲ主張シタル結果米國側ニテ我意見第一點ヲ容レ第二點ハ承引セナルモ之ヲ原案ノ末項ニ附加スルノ修正案ヲ出シ
タルヲ以テ右ニテ妥結スルノ外ナシト認メ之ニ同意セリ條約第二十一條即之ナリ
尙同條項中ノ新建造ナル句ハ意義不明確ナリテ英國側ヨリ修正申出アリタルモ米國側同意セサリシヲ以テ英國側ハ日米
ノ了解ヲ得テ最終總會ノ席上本問題ニ關シ聲明ヲナシタリ

(三) 專門事項

四月一日ノ首席全権會議ノ從來未済ノ専門事項拘泥ノ目的ヲ以テ事務総長ノ作成セル議題表（三月三十日首席全権會議ノ際「マクドナルド」ハ右表ヲ作成各全権部ニ廻付スヘキ旨ヲ述ヘタリ）ヲ基礎トシテ討議シ
所謂不建造帶ハ之ヲ設ケサルコト（我方ニ於テ從來ノ主張ヲ散回セリ）
→

非人所可比。月既、良有量矣。至是之、并越人也。

(二) 排水量倒詫ノ問題ハ保有量決定迄之ヲ持越スエド

(三) 補助航空母艦及飛行機母艦ヲ何レノ類別ニ屬セシムヘキヤノ問題ニ關スル米國側ノ新提案ハ専門家間ノ非公式ノ話

合二移スコト

ノ飛行機母艦問題ハ補助航空母艦問題ノ解決ニ從ヒ自然解決セリ（本節一）ノ（ト）（参照）

我練習艦代換問題
特殊艦船ノ一タル我練習艦代換問題ハ頗ル難問ナリシカ（現有艦中五隻保有ノ件ハ三月七日第一委員會ニテ決定セリ）四月九日及十日三國全權會議ヲ經、琢磨級三隻ヲ以テ現有五隻ヲ代換シ得ルコトニ協定成レリ。

議會ニシテ又七日、子音ノ言葉ノ長ノタリ奈テ右言葉ニ絶ニ戈弓カ日月十二日ノ事ハ司第一兵團會ニテ目五日二十五

一セント」ノ融通ヲ認ムヘキヲ提議スルヤ米國側ハ保有量決定セル以上本問題ハ既決問題ナリトテ强硬ニ之ニ反対シ結

日米首脳全権間ノ内協議ニ委スルコトナリタルカ四月十四日若槻全権ト「ステイムソン」トノ會談ノ結果融通ヲ受クル

「ハ、高遠さん、おはようございます。今日はお仕事ですか？」

長外監治 三嗣スル事
一委員會ノ報告書ハ第五回忠會ニ令テ采翠ヒラレタリ

水艦ノ艦刑問題ハ四月八日第七回第一委員會ニテ決定ヲ見第五回總會ニテ探擇セラレタリ

水艦使用制限問題、五國ノ法律家間ニ非公式會合ヲ行ヒ居リタル九意見總リタルヲ以テ四月三日五國法律家委員會ヲ開

卷之三

ヨトナレリ

助艦ニ關スル代換及艦齡ノ規定及主力艦ニ關スル規定ハ本期ニ入リテ初メテ討議セラレ第八回第一委員會ノ議ヲ經テ第

「此の事は、おまえの心事か？」
「うむ。」

（廣告）主：監視團（司第大廣告）支那長方公司（司第一廣告）及日商吉野公司（名圖）皆專事多キ爲メ之ヲ採擷セス。長久

ニ止メタリ

未發問題

(四) 條約ノ起草及調印

草着約文起
文ノ起草ニ着手セリ

如此日英米三國間ノ問題ハ十日ニ至リ大略決定シ英佛伊ノ關係モ右ト同日ニ決着セルヲ以テ會議ハ協定事項ノ整理及條約

四月十一日首席全權會議^(イ)協定事項ノ實質ヲ整理シテ起草委員會ヲ補佐スヘキ條約委員會(九日三國間ニ既設)
ニ佛伊ノ代表者ヲ參加セシメ^(ロ)起草委員會ヲ設立シ且條約案ノ骨子トシテ十日三國全權會議ノ際提出セル「ステイムソ

ン」案ヲ承認シ^(ハ)起草委員會ヲシテ直チニ條約案ノ起草ニ着手セシメ若シ十五日朝迄ニ案文決定ヲ見ハ十七日最終總會

ヲ開キテ各國ノ聲明及條約ノ署名ヲナスコトトセリ

條約起草
委員會
「マルキン」ヲシテ條約原案ヲ起草セシムルコトトシ十二日ヨリ右「マルキン」ノ原案ヲ本トシ休日ヲモ廢シテ絕大ナル

努力ヲ續ケタルモ十五日迄ニ完了スルコト不可能トナリタルヲ以テ四月十四日開催セラレタル總會ノ席上「マクドナルド」

ヨリ條約ノ調印ハ之ヲ二十二日トナスコトヲ提議シ右ニ決定セリ

我全權ハ右ノ如ク短期日内ニ條約ノ調印ヲ了セサル可カラサル情勢ニ鑑ミ政府ニ對シ我方ノ事情ノ爲メ調印期日ノ後ルル

カ如キコトナキ様措置スルノ要アルコトヲ稟申シタルカ政府ハ全權ヨリ報告ノ條約案文ニ付迅速ニ審議ヲ進メ二十日條約

文ニ異議ナキニ付調印シ差支ナキ旨ヲ回転シ越シタリ

各國全權ハ四月二十一日最終首席全權會議ニ於テ同日起草ヲ完了セル條約案ニ關シ各國ニ何等問題ナキ旨言明シ次テ二十一

四月二十日最終首席全權會議ニ付協議セリ

二日ノ總會ノ議事手續ニ付協議セリ

二十二日開催ノ最終總會ハ右打合ノ通^(イ)制限方式ニ關スル協定ヲ議長ヨリ聯盟事務局ニ傳達スルコト^(ロ)次回會議ハ一

九三一年ニ開催セス一九三五年ニ開催ノコト^(ハ)今次會議ノ名稱ヲ倫敦海軍會議(The London Naval Conference)トシ本

條約ヲ一九三〇年倫敦海軍條約(The London Naval Treaty of 1930)トナスコトニ決定シ次テ各國全權ノ演説ニ移リ(右

演説中重要ナルハ英首相ノ保障條項ニ關スル部分ト若規全權ノ我留保ニ關スル部分トノ一トス)右終テ條約ノ署名ヲ了シ
議長會議ノ休會ヲ宣シタリ如此シテ倫敦海軍會議ハ四月二十二日午后一時過終了セリ

條約調印
帝國全權
ノ請願及
右ニ附ス
同訓ス

四月二十
二日最終
首席全權
會議